

駅から ぶらり旅

文＝伊藤哲也
写真＝亀井川 英樹

深^{ふか}川^{がわ}駅から石狩沼田駅に向かう列車の車窓から、黄金色の稲田が見えた。唐の詩人、岑参^{こんさん}にこんな詩句がある。



運転席にも入れるクラウス15号蒸気機関車。格納庫に見える「明治」の文字は、昭和炭鉱を経営した明治炭業株式を示す。

此郷多宝玉
慎勿厭清貧

「この郷に宝玉多し 慎んで清貧を厭うなかれ」。その地方にたくさんある宝玉（自然の恵み）をいとおしみ、享受することは、人生の豊かさに通じる。たとえ派手な、あるいは権勢を誇る都会ではなく、清貧と言われるよう



◎第二〇三回

石狩沼田駅

な田舎の生活でも、それは十分生きるに値するものではないか。そんな心意気であろう。

石狩沼田駅から町営バスに乗り、ほろしん温泉ほたる館へ。ふと温泉の向かいにあるSLに目が止まった。その名は「クラウス15号蒸気機関車」。解説板によれば、一八八九年（明治二十二）にドイツで製造され、日本に輸入



炭鉱資料館の展示。「沼田町役場昭和出張所」の木製看板が、往時の昭和炭鉱の賑わいを感じさせる。

●ふるさと資料館分館（炭鉱資料館）／雨竜郡沼田町字幌新
☎0164・35・2155（沼田町産業創出課企画政策グループ）。
9:30～16:00、月曜（祝日の場合、翌日）、年末年始休、無料。
日本三大熊事件の一つ「沼田幌新のクマ事件」の展示などもある。



炭鉱資料館の敷地にあるトレーラーハウス。背後に手入れを進めている森がある。

された。一九三二年（昭和六）から留萌鉄道で石炭運搬などに活躍し、一九六七年（昭和四十二）の十二月まで現役だったという。今もよく手入れされ、黒光りする鉄の車体は、小型ながら迫力がある。近代とは鉄と石炭の時代でもあった。クラウス号の格納庫の先に炭鉱資料館があり、かつて沼田町にあった昭和炭鉱など三つの鉱山の歴史

史を展示している。建物の裏手には、かつて恵比島駅と昭和炭鉱を結んだ留萌鉄道の跡もある。炭鉱資料館は現在、コワーキングスペースなども兼ねており、無料で使えるデスクやWiFiが整備されている。また、「そらち自然学校」の事務局も置かれている。その事務局長、大竹将太^{おおたけしやうた}さんと、森遊びへ出かけた。「この一帯（ほろしんの森）は炭鉱開発のために伐採され、今は白樺などの自然林となりました。林床はほとんどササ藪^{やぶ}です。私たちはササを刈るなどして森の保全と更新を図り、同時に体験活動の場としています」（大竹さん）。

ササを刈った後の明るい森に羊を飼い、屋外サウナ、ハンモック、焚火スペースなどを設置。森に隣



ドサンコとポニーが1頭ずつおり、夏の間、森のササを食べてくれる。



大竹さん(左)と火を見ながら語り合う。「企業を含め、色々な人が来ます。そうしたネットワークを広げながら、森を未来に残していきたいですね」と熱をこめて話してくれた。

接して宿泊用トレーラーハウスも二棟ある。四季を通じて「森の暮らし」を体験できるイベントを開催し、幼稚園児から企業研修まで、多彩な体験メニューを用意している。活動の根本にあるのは、「森づくりを通じた人間らしさの回復」なのだろう。

「ほろしん温泉はたる館」は、七月初旬から八月初旬、ゲンジボタル、ヘイケボタルの飛



(左) ハンモックでひと休み。これはヘリコプターが荷物をつるす道具だった。大人4人が同時に寝られるほどしっかりしている。(右) 鉄製のクサビの上に薪をおき、ハンマーで割る。安全性の高い薪割り方法だ。背後にあるのは移動式サウナ。

●そらち自然学校／雨竜郡沼田町字幌新 ☎070・1139・6320(9:30～16:00)。トレーラーハウスは1棟4人まで、素泊まり1人5,000円(4人での1棟貸切は15,000円)。薪割り体験のほか、川海老取り(子ども向け)など、豊富な体験メニューがある(詳しくはHPで)。



(上) はたる館の「源氏の宿」の特別室。和室、小上がり付きツインルームもある。(左) 大浴場の露天風呂。泉質はアルカリ性単純硫酸冷鉱泉。なめらかな肌触りの湯である。宿泊者の入浴時間は15:00～24:00、6:00～9:00。

び交う宿。その名も「源氏の宿」^{やなだ}「平家の宿」の二棟からなる。さっそくレストラン「せせらぎ」で夕食(グレードアッププラン)である。



●ほろしん温泉はたる館／雨竜郡沼田町字幌新377 ☎0164・35・1188。チェックイン15:00、チェックアウト10:00、1泊2食付き2名1室ひとり10,875円～(グレードアッププランは13,075円)。日帰り入浴は10:00～22:00(入館21:30まで)大人500円、無休(施設点検の臨時休館あり)。

(左) 夕食の一品「大海老のフカヒレ仕立て」。(下) トマトピューレを使ったスープで食べるしゃぶしゃぶ(グレードアッププランは牛肉と豚肉、スタンダードプランは豚肉のみ)。



メインは、沼田町特産のトマトのピューレをスープに使ったしゃぶしゃぶ。牛と豚の二種類のロース肉が用意され、どちらも分厚く大きく、ボリューム満点。ほかにも前菜、スープ、魚料理、沼田町産ななつぼしのごはんなど。

温泉の露天風呂は幌新^{たちべつ}太刀別川

を望む開放的な空間で、サウナもある。また、宿泊者は無料で入れる岩盤浴（五十分）も楽しめる。

翌

朝、やはり温泉の向かいにある「沼田町化石体験館」へ赴いた。迎えてくれたのは、学芸員の長野あかねさんと松井佳祐さん。四体の骨格標本（※）の解説をしていただいた。

約二百万年前まで、この地は海だった。ヌマタナガスクジラはナガスクジラ科の初期のタイプと言われる。「目ではなく耳で見ると考えられるほど、クジラは音をキャッチする能力が高いそう。特徴的な耳骨を持っており、沼田町の化石でも耳骨が決め手となって、新種のクジラと判明した。

クビナガリュウは何と長いのだろう（全長約十二メートル）。頸椎などの椎骨が、九十近くあるという。アンモナイトや魚を食べていたと考えられる。さわれる化石（実物）も展示されている。

ヌマタカイギユウは小型のカイギユウの中で最後（約七百万年前）まで生き残った。海藻を食べていたという。現生のカイギユウ

の仲間としては、ジュゴン、マナティーなどがいるが、彼らもまた絶滅の危機に瀕している。

この施設の展示の目玉は、ヌマタネズミイルカ。北海道の天然記念物に指定されている。化石産出

時の状態も模型で展示されており、まるで丁寧に埋葬されたかのようにほぼ全身の骨格が見つかった。「日本で一番、世界でも有数のいい状態でした」と、長野さん。およそ四百万年前に生きた、ネズミイル

カの古い仲間だそう。

ほかにもタカハシホタテなどの化石が展示され、太古の時代へと想像の旅に誘われた。この地の稲田森、化石、温泉と、沼田町は宝玉に満ちた郷だった。



（上）化石体験館のメインとなる骨格標本。左から、ヌマタナガスクジラ、クビナガリュウ、ヌマタカイギユウ。

●沼田町化石体験館／雨竜郡沼田町字幌新381 ☎0164・35・1029。9:30～16:00（入館15:30まで）。月曜、祝日の翌日、冬期（11月4日～4月28日）は休館、大人300円、化石発掘キットも販売している。



ヌマタネズミイルカの化石が産出された時の状態模型。発見したのは山下茂さんという中学校の先生で、地元の化石の調査や研究に貢献した。

ヌマタネズミイルカの骨格標本を見ながら、解説していただいた学芸員の長野さん。一般の入館者にも解説してくれる（事前予約が確実）。



（※）本文で紹介した骨格標本は、いずれも沼田町で化石が発見されているが、展示はすべてレプリカ。